

## 【学校評価】（別紙「令和5年度学校自己評価」参照）

### ◇重点目標に対する自己評価

- 1 基本的な生活習慣の確立 B
  - ・明るく元気な挨拶の励行、時間厳守、整理整頓に努める。
  - ・情報モラルを身に付けさせ、ICT機器の正しい使い方を指導する。
  - ・交通ルールやマナーの徹底など規範意識の高揚を図る。
  - ・ウィズコロナの時代を見据え、健康で規則正しい日常生活を実践する。
- 2 基礎学力の確実な定着と専門的な知識・技術の習得 A
  - ・評価方法を工夫するとともに、授業における指導改善に生かしていく。
  - ・情報機器を活用したわかりやすい授業を実践し、生徒個々の学力を高める。
  - ・資格取得や各種コンテスト、競技大会への挑戦をとおり、生徒の実践力を高めるとともに多くの成功体験から生徒に自信を持たせる。
- 3 ものづくり技術を生かした地域・国際貢献の推進 A
  - ・工業の特色を生かした地域連携・交流を推進し、地域に根ざし信頼される学校づくりに努める。
  - ・福祉教育・人権教育をとおりした地域・国際貢献活動の推進に努める。
- 4 部活動の充実 A
  - ・自主性を高め、より高い目標に果敢にチャレンジする精神を育てる。
  - ・体力の向上と豊かな人間性を育み、よりよい人間関係を構築する。

### ◇評価結果に基づく今後の改善方策等

「基本的な生活習慣の確立」について、目標達成率が全体的に前年度に比べ増加傾向となっている。引き続き、教職員の日々の生徒指導、また生徒の基本的な生活習慣に対する意識の向上を目指して取り組んでいきたいと考える。

また、今年度からコロナの5類感染症移行に伴い手洗いやうがい等が徹底できていない場面も見受けられ、学級閉鎖となったクラスもあった。このような基本的な感染症対策の徹底こそが、健康的な日常生活の最も重要な要件と考えられるため、次年度は更なる周知・徹底・指導を行っていく必要がある。

「基礎学力の確実な定着と専門的な知識・技術の習得」について、学校全体として学習活動に積極的に取り組んでいると考えられる。学習指導部生徒授業アンケート（7月）と教員アンケートQ2「授業に満足している」との回答がそれぞれ90%以上の高い結果となり、教職員の日々の教材研究や指導の成果が現れていると考えられる。一方、保護者アンケートにおいて、生徒が授業に満足していると回答した保護者は前年を大きく下回った。学校での教育活動の様子等を積極的に発信していく必要があると考えられる。また、資格・検定合格状況においても多くの資格を取得しており、資格・検定試験へ高い意識を持っていることがわかる。

しかし、両者も高い水準であるが、昨年度と比較すると生徒の意識は増加、教員の意識は減少している。家庭学習などの授業や補習以外にも資格検定取得に向けて取り組ませることが必要だと考えられる。

各種コンテストについては、新型コロナウイルス感染症流行の影響がほとんどなくなり、大会やコンテストが通常通り実施され、3年生の課題研究の一環や部活動として多くの大会・コンテストに参加した。特に今年は高校生ものづくりコンテスト電気工事部門とジャパンマイコンカーラリーで全国大会に出場するなど、見事な成績を収めることができた。

「ものづくり技術を生かした地域・国際貢献の推進」について、ここ数年コロナやインフルエンザの影響により、学校の様々な活動に制約を受けてきた。しかし、本年度からは、多くの活動が以前の状態に戻りつつある。テクノボランティアは、近隣の小中学校9校から計31点の学校備品などの修理依頼があった。サイエンススクールin栃工では栃木市内の小学生20人参加し、こどもぱそんスカイベリージャムを搭載した「プログラミングロボットカー・スカイベリーカーゴ」の製作をおこなった。こどもパソコン「SkyBerryJAM®」活動は出前プログラミング講座を5校小学校、1校中学校で実施。また高校生未来の職業人育成事業では栃木市内の小中学生23名が、「竹あかり」の製作活動をおこなった。

栃木特別支援学校との交流会は7月11日と12月12日に実施。栃特校B部門中学部・高等部生徒31名、本校からは福祉委員・電算機部員・写真部計33名参加のにぎやかな交流会となった。

タイ王国ボランティア交流活動12/3（日）～10（日）の8日間、生徒11名、職員4名でタイを訪問した。タイの日系企業（Showa Brighten Metal）を訪問。車いす修理活動は、バンコク北西部のノ

ンタブリにある障害児施設で行われた。

「部活動の充実」について、弓道部の黒瀧君が国体において栃木県選手として出場し、見事優勝を果たした。「部活動をとおして幅広い人間関係を構築」については、具体的な数値、結果としては表われていないが積極的に参加している生徒が80%を超えており、電算機部の「プログラミング出前講座」「サイエンススクール事業」や3年生の課題研究の活動として「巴波川竹あかり事業」、福祉委員会・写真部・電算機部の栃木特別支援学校との交流活動など、地域貢献活動が小学生から大人まで「幅広い人間関係の構築」が図られていると推察される。新型コロナが5類に移行し、ほぼコロナ禍前と同じ活動ができてきていると思われる。

## 【学校関係者評価】

### ◇評価結果

「今年度の事業及び成果について」「校内における学校評価結果について」の2点について主に意見をいただき、本校の良い点や改善すべき点など客観的に自校を知ることができた。学校評議員からは下記のような意見があった。

- ・日頃の各部の指導がよく分かる。生徒活動報告会が素晴らしい。全国大会出場等の実績が素晴らしい。
- ・（生徒アンケートNo.22、23の結果より）先生方には少しずつ寄り添ってほしい。
- ・海外ボランティア活動、地域貢献活動は統合後も是非続けて欲しい。

### ◇評価結果に基づく今後の改善方策等

<学校運営に生かされた事例>

- ・新型コロナが5類に移行し、学校内外で実施される行事の運営方針などの見直しが図られた。